

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871100984		
法人名	株式会社はーとふるセゾン		
事業所名	はーとふるセゾン宝塚		
所在地	兵庫県宝塚市中筋5丁目17-17		
自己評価作成日	平成29年2月19日	評価結果市町村受理日	平成29年3月27日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/28/index.php		

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成29年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとして認知症の方の安心・安全の介護はもちろん、暮らしの場であることを意識し、アットホームな環境のなかで一人ひとりが笑顔で暮らして頂けるよう努めています。特に季節を感じる暮らしを大切にしています。四季折々の行事、習わし、季節の花や飾りつけ、季節の食材を使った食事、又その方の自立度に合わせた家事への参加やレクリエーションの提供、また外出支援による気分転換と日々の暮らしに張りや彩を持って過ごして頂けるよう試行錯誤しています。介護計画はご本人の言葉にならない思いや意向の理解に努め、ケアカンファレンス実施、情報の共有、連携等チームケアを高め一人一人にのびのびに関わり笑顔で接することを大切にしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人らしくこの町で暮らす-笑顔-」の理念に基づきユニットごとに目標を立て、さらに標語をつくり実践へとつなげている。全職員から募集し朝礼時に唱和する今期の標語は、「おだやかな空気を作る言葉がけ」であり、職員みんなで実践している。食事は自前で、調理専門職員がメニューを考え食材を仕入れ、調理する。入居者も状況により参画する機会を作っている。月1回の「はーとふる便り」には入居者の写真が掲載され、行事予定、誕生日、簡単な出来事も記されている。また、担当者から家族へは、入居者ひとり一人の様子を手書きで付記して送付し、家族に事業所の暖かい様子や雰囲気が伝わるよう工夫している。近くの保育園の運動会に招待され、子供たちと一緒にゲームをしたり、「お雛祭り」には園児に来てもらい、毎年楽しく交流している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

グループホームはーとふるセゾン宝塚

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	《その人らしく この町に暮らす 一笑顔ー》の理念は新入職員に対して入職時理念の意味を説明し共有出来る様にすると共に、年度始めの全体職員会議で確認している。理念に基づいた目標をユニットごとに立て実践につなげたり、標語を作り朝礼にて唱和している。	「その人らしく この街に暮らす一笑顔ー」の理念を具体化させるため、年度初めには三つのユニットごとに目標を設定する。さらに3か月ごとに標語を作る。今月は「おだやかな空気をつくる言葉がけ」である。標語は朝礼で唱和して実践に結び付けるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	初詣や地域の祭り、サロン等の行事や買い物、散歩等で地域の方々と顔を合わせる機会を出来るだけ作る様に努めている。保育園との交流会を継続的に行っている。以前より地域の民生委員の方が運営推進会議に加わっている。	ひなまつり交流会には近隣の保育園児の訪問がある。盆踊りや保育園の運動会に招待され地域住民とも交流の場をもっている。自治会には入会していないが近隣の住民も高齢化し、入居の申し込みもあり地域住民に貢献でき、繋がりができる機会とも考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や相談対応時は、相談を受けたり、質問や困っておられる事に、培った認知症の人への理解や支援の方法を活かして情報提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議では、活動や評価結果等の報告や活動計画について意見をいただいている。会議の内容はリーダーミーティングで話しあったり、職員に紙面で報告しサービス向上に活かしている。	2カ月に1回開催し、参加者は家族、民生委員、市介護保険課、地域包括支援センター、知見者等である。インフルエンザが流行した状況も報告した。「はーとふる便り」を利用し活動報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員には、運営推進会議に出席してもらい、事業所の実情やケアサービスの取り組み状況を伝えている。又、事故発生時には速やかに報告し対応についてアドバイスを頂くこともある。今年度は市の実地指導があり細部にわたって指導を受け改善点を指摘され対応した。	本年の1月にはインフルエンザが流行し困った状況を報告・相談した。その後、その感染源や予防対策等を話し合い適切な助言を得ている。運営推進会議に介護保険課と地域包括支援センターの参加があり事業全体に適切な意見を貰え得る関係にある。	
6	(5)	代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について年に1回社内研修を行い職員の理解を深めている。止むを得ず身体拘束が必要な場合は家族に説明し理解を求め、定期的に身体拘束の解除に向けたカンファレンスを行っている。	車いすに滑り落ち防止ベルトを付ける場合は、家族の同意書を条件としている。1階と2階のユニット間はエレベーターで自由に行き来できるが、見守りの必要な方もいるので、「必要な時には職員を呼んで下さい」と張り紙をして拘束とならないように気配りをしている。	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」の内容をすべての職員が理解して実践に取り組めるように、外部の方に定期的な研修をお願いしては如何でしょうか。

自己評価および第三者評価結果

グループホームはーとふるセゾン宝塚

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に職員同士で利用者への接し方や言葉使いに注意を払っている。職員間で情報共有し協力し合いケアを行い入居者の心身状態に注意を払っているため虐待が見過ごされる事はない。	入職時以外にも定期的に研修を行って、虐待の事例を話し合い、日常の言動のなかでも気をつけあっている。管理者は職員の疲労やストレスがたまらないように職員と話し合える体制づくりをしている。社内研修を身体拘束と合わせて行っている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のパンフレットを置き情報提供が出来るようにしている。今年度は権利擁護について社協より出前研修を受け、ご家族にも案内を出して職員と共に理解を深めて行った。	数名の入居者が成年後見制度を利用している。制度の利用希望者にチラシやパンフレットを準備し職員が簡潔に説明し専門の方を紹介している。宝塚市社会福祉協議会の出前講座として研修会を開催した。職員、家族、他事業所等20数名が参加した。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、重要事項説明書に沿って説明し、困っておられることや質問には十分な説明をこころがけ、理解・納得していただけるようにしている。	管理者が面談し契約書、重要事項説明書の内容等を丁寧に説明している。また、状況により体験入居も提案してできるだけ本人が納得できるような入居までのプロセスをとるようにしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、介護相談員の受け入れ、運営推進会議、家族会等で意見をお聞きできるようにしているとともに、日々のかかわりの中での利用者の要望やご家族の来訪時の会話等は運営に反映させている	毎月発行の「はーとふる便り」にはその月の行事、日頃の生活状況の写真を載せている。担当職員の一言も手書きで記し好評である。月1回は市から「介護相談員」の訪問があり、入居者と1時間面談がある。1か月後にその内容が報告される。	家族のアンケートには、「改善してほしい点」の意見が多数ありました。家族会等で意見が出やすい場作りを検討されることを期待します。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見提案は月に1度開催するリーダーミーティングで話し合い、必要に応じて管理者から代表者に報告している。	月～土の朝礼には各ユニットとデイサービスの代表者があつまり施設内の大まかな流れを共有している。ユニットミーティング、リーダーミーティングを月1回開催する。管理者は2つの会議に参加し、双方向で意見を出し合う。美化係、レクレーション係、掲示係があり、必要に応じて担当者を決めて課題に対処している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格や責任に応じてキャリアアップを目指せる新たな給与制度を導入し職員のやりがいに繋げている。有給休暇を取りやすいような職員配置や退職金制度も整備し、職員が働きやすい環境を目指している。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームはーとふるセゾン宝塚

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時、経験に応じた研修を実施。また職員がより主体的に専門知識を身につけられるよう2ヶ月に1回、職員が自らテーマを選定し社内勉強会を企画、実施している。実践者研修についても順次受講できるよう申し込んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宝塚市介護保険事業者協会へ加入、会議のテーマや研修に応じて管理者や職員を参加させている。他事業所と運営推進会議に相互に参加し合い事業所間の関わりを深めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に可能ならばご本人にも来ていただいたり、ご自宅等に訪問して話を聞き、少しでも不安を少なくして入居していただけるようにしている。入居時は生活環境も変化し不安感は大いなので出来るだけ関わりを持つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から出来るだけご家族の困り事を理解し寄り添うように心がけている。ご本人の生活状況、こちらの対応等を出来るだけお伝えし理解して安心していただける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、本人の状態等をよく聞き、必要ならばグループホーム外のサービスや社会資源等の情報を提供している。多くの場合すぐの入居には応えられないので、必要に応じて介護サービスの情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の負担にならない範囲で食事盛りつけ、シーツはぎ、食器洗い、掃除、洗濯物たみ等、その方の能力に応じ、出来ることはして頂いたり、一緒にしている。職員も入居者様から元気をもらっていて感謝している事を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の便りでご本人の様子を伝えている。又、ご家族来所持はご本人の様子を伝えたり、話をするようにしている。受診や外出等ご家族に協力していただいている。ご家族の思いや要望を聞き共に本人を支えていくように努めている。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームはーとふるセゾン宝塚

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力して頂きながら地域の老人会への参加、一時帰宅、お墓参り等、積極的に支援をしている。以前から通っていた歯科や美容院へ行かれる方もある。友人等の面会には又来ていただけるようお願いしている。年賀状のやり取りの支援をしている。	月1回は馴染みの老人会に参加する方もいる。老人会で作った折り紙等も個人部屋に飾られている。年賀状を書く方には職員もお手伝いをする。元住んで居た地域の方が会いに来ることもある。馴染みの美容院やお店の買い物なども支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の気質、認知症のレベル、相性等を考慮して食事席を決めている。お茶の時間には利用者同士が話せるような話題を提供したりしている。関係が深まる事もあるが、利用者同士の関係は難しいこともあるので、トラブルにならないよう職員が間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居後の施設や病院へ面会やお見舞いに行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時々に本人や家族より生活歴や希望を常に聴いている。困難な方に関しては、日々の関わりの中で表情やふとした発言、つぶやきや思いを汲み取るよう、職員間で話し合い取り組んでいる。	入居者の生活介護には担当者制をとって、毎月の家族への報告に個人ごとにコメントを書いている。その人の要求や行動等からその方の思いを把握するようにする。ユニットミーティングでは、それぞれの気づき等を関係職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅を訪問したり、本人やご家族からお聞きし、これまでの暮らしについての情報はできるだけ多く把握し職員間で共有するようにしている。了解を得て在宅時のケアマネジャーからも情報を得ることがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる限り入居前、ご自宅での生活を尊重するようにしている。また日々の関わりの中で観察し、記録や申し送りで情報を共有し把握している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の気持ちや要望を盛り込んだ、また職員間でカンファレンスをして介護計画を作成している。シート利用。定期的(年1回)、及び変化に応じて介護計画を作成している。	入居者の状態変化に応じて計画の見直し作成をしている。関係職員全員が参加するユニットミーティングで、本人や家族との日頃の関わり合いの中で担当者から報告や意見を聞き、計画作成に反映するようにしている。	

自己評価および第三者評価結果

グループホームはーとふるセゾン宝塚

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録シートや連絡帳・申し送り、必要に応じて別途記録シートを作成、介護計画を実践し職員間で情報を共有して、定期的及び変化に応じて開催するカンファレンスでの介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設デイサービス利用(音楽療法、歌の会等)や家族が対応困難な場合の通院介助、衣類や日用品の購入等要望はできるだけ柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催される催しへの参加、個別の新聞配達、美容院や商店、喫茶店、食堂の利用、又、ボランティアグループや個人ボランティアを受け入れ豊かな暮らしを楽しめるようにしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携を図り十分な医療が受けられている。脳神経外科や眼科等、専門医への通院については家族の付添を基本としているが、緊急性や入居者の身体状況を考慮し、できる限り柔軟に支援できるよう努めている。	協力医療機関をかかりつけ医として、往診を受けている方もいる。親族のドクターがかかりつけ医となっている方もいる。他専門医への通院は家族の同行を基本とするが、職員が付き添い受診支援をする場合もある。脳神経系の診察には出来るだけ職員が同行するか生活状況等を紙面でお伝えできるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職として看護師は常駐していないが准看護師資格の職員がいる。看護師に相談したり直接医師に連絡し適切な対応ができるよう支援している。日中は併設デイサービスの看護師の応援も得られる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、かかりつけ医の診療情報と介護情報を書面と口頭で情報提供している。入院中は面会にて様子を聞いたり情報交換をしている。又退院に向けてカンファレンスを開催することもある。提携病院で開催される交流会に参加したり、情報誌を送って頂いたり関係作りを行っている。	入院した場合はできるだけ数日に一回は見舞に行くようにしている。入院によるダメージをできるだけ少なくするために看護師、医師等の関係者と情報交換をしている。また、家族とも回復状況等を情報交換しながら、速やかに退院支援に結び付けている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に対して終末期については入居時にGHでできることとできないことを説明し、その方の置かれている状況や身体的な状態に応じて入院先や特養等の設備や医療体制面の整った他の介護施設への住み替えを支援している。状況によっては看取りが可能となる場合のあることも併せて伝えている。	事業所の力量を考えて、重度化や終末期を支える体制をとっている。現在は1名の方が看取りの状態にある。緊急体制も職員、医師とで確認をしている。「看取り指針」、同意書作成などにより、事業所が対応し得る最大のケアを家族に説明している。	

自己評価および第三者評価結果

グループホームはーとふるセゾン宝塚

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応のマニュアルがある。緊急時の対応については入職時研修を行っている。救急救命については不定期ながらも実施しているが、救急救命実践力の不安も多い。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署と共に昼や夜を想定して消火・通報・避難訓練を行うと共に随時、火災報知機の適切な使用方法についても学んでいる。地域との協力体制について具体的には今のところ築けていない。災害時に備えて食料品を備蓄している。	消防署の協力を経て消防訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。避難時の持ち出し書類も作成している。今後、併設のデイサービスとも連携して利用者ならびに入居者の訓練も計画している。	職員から構成する災害対策の担当者部会を立ち上げ、定期的に体制等について見直し、確認する機会をもつことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮、人格を尊重し、一人ひとりの理解力を考慮しての言葉かけや対応をしている。トイレの声かけや食事時のエプロン着用など気をつけている。家庭的な雰囲気は大切にしながらも馴れ合いの言葉にならないよう気をつけている。	各個室にはトイレを設備していてカーテンで仕切っている。介助が必要な時にはプライバシーを損ねないように、カーテン越しに声掛けをして支援する。日常生活の中で本人の尊厳を無視した対応にならないよう気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中でしたいこと、行きたい所や食べたいものなど聞くようにしている。思いや希望を表出できる方ばかりではないので、一人ひとりの能力に応じて、答えやすいような声かけをして、表情をよみとる等して、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、心身の状態に合わせての食事時間や居室配膳等できる限り本人の意向やペースを大切にしよう努力しているが、外出や入浴等、入居者全ての希望を実現させることについては職員の配置上限を感じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの色やデザインはほぼ把握している。その日着る服を自分で服を選んで頂いたり、カットやヘアカラーに美容院へ行かれる方、お化粧を好む方にはできるように支援している。一緒に服を買いに行く事もある。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは調理担当職員がしているが定期的に入居者と共同しておやつ作りや食事作りをしている。また日常生活においても野菜の下ごしらえや味噌汁づくり、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いもできる方にはして頂いている。	調理だけをする方を2名雇用し2階の厨房スペースで全ユニットの食事を作る。入居者は職員の支援を受け、季節の行事食として、恵方巻きやお彼岸にはおはぎを作った。月に一度はおやつや夕食と一緒に作り日があり定着している。食材は近隣の八百屋さんや魚屋さん等から配達してもらったり、近隣のスーパーに買い物に行ったりしている。	食材を仕入れるときに機会を見て入居者もお連れすることを期待します。

自己評価および第三者評価結果

グループホームはーとふるセゾン宝塚

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は咀嚼能力に応じて、食べ易い形状にしたり、一人ひとりに合った量にし、様子を見ながら声かけをしたり介助したりしている。水分はお茶の時間を設けて好みの飲料を提供し、好みに応じて対応している。毎日の食事量を記録し体調の変化に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけでできる方や用具を手渡す方、介助の必要な方、うがいが難しく口腔ケアシートを使う方等本人の能力やその方の状態や必要に応じて1日2~3回実施している。義歯は定期的に洗浄液で洗浄している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用と、申し送り等で排泄時間や排泄のサインを把握して声かけやトイレ誘導をし、できるだけトイレで排泄できるようにしている。	各個室にトイレを設置している。排泄チェック表では排泄パターンを把握し、さりげない声かけで個室に誘導しトイレでの排泄を促している。できるだけトイレを使用し、パットやリハビリパンツ類の使用については夜昼、体調等、本人に合わせて検討、使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談し下剤も使用するが、朝はバナナとヨーグルト、又野菜の多い食事を摂って頂いたり、個々の排便状況に合わせて水分補給、野菜ジュースや冷たい牛乳の提供、散歩や歩行練習等の運動により自然排便を促している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員体制により入浴時間帯、入浴日は個々の希望に添ってできないが、体調や希望により変更し、柔軟に対応している。入浴中は個々のペースでゆっくり快適に入浴していただけるようにしている。入浴中の会話も大切にしている。	利用者の希望の方は、週2~3回は入浴ができる。5月にはしょうぶ湯等の季節湯も使用する。入浴を好む方は多く、本人にとって大事な話をされる方もあり大切な場となっている。また一人でゆっくりと入浴を楽しむ方はそっと見守る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や体力に応じて居室で休んで頂いている。夜間は安眠できるよう寝具、室温、明るさ等に配慮し安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての利用者の薬を完全に把握することは難しいので、説明書をファイリングしいつでも確認できるようにしている。薬の変更や臨時薬は申し送りで情報を共有している。服薬介助は記録し確実にやっている。薬の変更時は様子観察を行い、主治医に報告している。薬局とも連携を図り情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて出来ること、得意なこと役割を担って頂いている。楽しみごとは歌の会や四季折々の行事等全体で行なうものや、読書、散歩、お茶、百人一首等独自の楽しみをケアプランに組んでいる。個別の菓子や副菜を常備している方もある。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームはーとふるセゾン宝塚

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそってはできないが、観梅、花見、紅葉狩り等の季節の行事や外食、喫茶、買い物や散歩などできるだけ外出する機会をつくっている。又、家族とお墓参りや、食事、旅行に出かけられる方もある。	外出スケジュール表を作成している。ちょっとした買い物やドライブにおさそいするときの外出チェックの目安にもしている。少なくとも月1回は、身体状態に応じた外出先や所要時間に配慮して出かけられるように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は財布を持ち、買い物の時は自分で支払いをして頂いている。一緒に買い物に出かけ、お金の保管や支払いをお願いする場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけたり、手紙を出したり、年賀状を書いたりして頂いている。家族の了承の下、個人の携帯電話を所持し好きな時に連絡を取る方もある。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広さや構造上の制限があるので、温度調節や換気に気をつけ生活環境を整え、季節の花を飾ったり置物、飾り付け、窓から見える花木やプランターの花など季節を感じ居心地よく過ごして頂け様に工夫している。テレビや音楽のボリュームには気をつけている。	玄関にはお雛様の段飾りがあり、春を待つようすがうかがえる。事業所の窓からは景色が見渡せる。窓辺には鉢植えの花などを工夫して置かれ喜ばれている。季節の行事の写真や習字なども飾られており、統一感があり、落ち着いた雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中で、廊下の一角に椅子や長椅子を設置、また玄関スペースに椅子やソファを置いたりし、共用スペースにおいても独りになったり、通りすがりに談笑することができる。また食卓で気の合った方同士で談笑できるよう席の配置には気を配っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時できるだけ馴染みの物(タンス・机・仏壇・飾り物)を持ってきていただくようにしている。又、それぞれの方毎に絵や手芸などのご本人の作品、家族の写真や飾りしている。テレビや冷蔵庫を置いている方もある。担当職員が本人・家族の意向を大切に理由のある居室づくりを心掛けている。	入居者自身が好みで自室をレイアウトすることは少ないが、本人が安らぎを得るような馴染みの物、古い物を持ってきてもらうように家族にお願いすることもある。訪問が少ない方には職員が部屋の様子に気配りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ・風呂等分り易いように、字を大きくしたり、個別の表示をしたり、言葉を選んで表示するなど工夫している。廊下には不必要なものを置かないようにしている。タンスにはどこに何が入っているが分り易いようにラベルを貼っている方もある。お掃除が好きな方に対して自分で掃除ができる様に支援している。		